

【中小機構 近畿 小淵本部長に伺いました】

Q1：近畿本部に赴任されるまでは、どのような業務に携わってこられましたか。

A1：私は、中小企業診断士の資格をもっていることもあり、高度化融資という制度の下、全国の組合組織や中小企業の皆様の融資・事業計画策定のお手伝いに長く携わってまいりました。そのため、全国各地の中小企業や中小事業者の皆様と直接お話をする機会を多く持つことができ、多くの経営者が、常に従業員やその家族に対して大きな責任を背負い、強い意思を持って会社を発展させていくという姿に畏敬の念を抱きました。

Q2：神戸医療産業都市にあるメテックやハイテックのようなBI施設（ビジネスインキュベーション施設）の今後をどうお考えですか。

A2：神戸医療産業都市におけるBI施設メテックやハイテックにおいては、神戸市や公益財団法人先端医療振興財団の協力を頂きインキュベーションマネージャー（IM）が常駐しています。このIMの人的ネットワークと機構の全国ネットワークの相乗効果で、BI施設の付加価値を高めていきたいと考えています。先日、別のBI施設にご入居いただいている企業の社長様から、会社設立後10年で40億円を売り上げるまでになったとお聞きしました。神戸を含めてこの近畿には、技術力があり元気な企業が多く存在していると改めて思います。そして、このような元気な中小企業が存在する間は、まだまだ日本も捨てたものではないと力強く感じました。

Q3：神戸の印象はいかがですか。

A3：神戸と言えば、おしゃれな街という印象が強いです。また全国的に「神戸スイーツ」が有名です。「神戸スイーツ」が神戸を発祥の地として発展した歴史的経緯から、スイーツで豊かな生活の実現の提案を目的に設立され、神戸大学の加護野忠男名誉教授が理事長をされている、「神戸スイーツ学会」が開催されていると聞いております。私もお菓子は好きなので、神戸で美味しいスイーツを沢山食べてみたいと思っていますが、学会の活動が神戸スイーツを神戸ブランドとして育て、地域産業の更なる発展に繋がれば素晴らしいと思っています。

Q4：最後に一言お願いします。

A4：私の座右の銘は「誠実」です。これまで多くの中小企業の方にお会いしましたが皆さん本当に立派な方々ばかりで人に対する見解も精通されております。相手を尊敬し誠実な対応を心がければ、心を開いて本音でお話いただけます。今後も機構は、神戸市並びに公益財団法人先端医療振興財団と連携し、地域の中小企業の皆様、またベンチャー企業の皆様を全力でご支援させていただきます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



独立行政法人 中小企業基盤整備機構
近畿本部 本部長 小淵 良男

Event

(1) HI-DEC 第四回予防医学セミナー

「脳科学から見た運動がもたらす心への効用」(仮)

日時：2012年9月30日(日) 場所：臨床研究情報センター 第一研修室

(2) BioJapan2012

日時：2012年10月10日(水)～12日(金) 場所：パシフィコ横浜

出展入居企業：ウシオ電機株式会社(MEDDEC) / 株式会社ナード研究所(HI-DEC) / 住友ベークライト株式会社(HI-DEC)

(3) 中小企業総合展 JISMEE2012

日時：2012年10月10日(水)～12日(金) 場所：東京ビッグサイト

出展入居企業：株式会社インクリース研究所(HI-DEC) / 株式会社グローバルエンジニアリング(MEDDEC)

Editor's Note

4月より、MEDDEC・HI-DECを担当しておりますIM(インキュベーション・マネージャー)の今井でございます。

先日、ポーターミナルに“ボイジャー・オブ・ザ・シーズ”が寄港しておりました。神戸と言えば、港に異人館そしてファッション。世界から注目を浴びている都市でございます。この街から、世界に広がる新たなベンチャーが生まれるお手伝いが出ればと思っております。

今後とも関係者各位の皆様のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

坂本・今井

●発行

入居企業募集中



神戸医療機器開発センター

MEDDEC / メテック

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町 7-1-16

TEL : 078-306-1162 FAX : 078-306-1163

URL : <http://www.smrj.go.jp/incubation/meddec/>



神戸健康産業開発センター

HI-DEC / ハイテック

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町 6-7-4

TEL : 078-304-6227 FAX : 078-304-6890

URL : <http://www.smrj.go.jp/incubation/hi-dec/054282.html>

JOURNAL

11

SUMMER 2012 ISSUE

Interview

独立行政法人 理化学研究所
分子イメージング科学研究センター
センター長 渡辺 恭良先生

Introduction

株式会社オーセンライアンス
ヘルスケア事業部

News & Topics

独立行政法人 中小企業基盤整備機構
近畿本部 本部長 小淵 良男



Kobe Business Incubation,
Medical Device Development Center
& Healthcare Industry
Development Center

vol.11 / SUMMER号
発行日 平成24年7月25日

保存版

独立行政法人 理化学研究所 分子イメージング科学研究センター センター長 渡辺 恭良先生

神戸医療産業都市の中で多くの著名な研究者の先生方にお話しを伺うとき、どうして研究者の道を選ばれたのだろうかという単純な質問がいつも頭に浮かぶ。壮大な宇宙の流れからみれば、一瞬とも言える人間の一生を考える時、人が同じように生きていく時間の価値的な利用を、生まれ持って自覚されているのではないかと思えるほど、幼少時代の環境を十分すぎるほど享受し、現在まで続く研究活動の志とされている研究者が多い。

今号では、ハイデックにも2チーム2ユニットが活動している理化学研究所分子イメージング科学研究センターの渡辺恭良先生にお話しをお聞きました。

何百というセミヤトンボにまみれる自然の探訪の日々の思い出を、輝く目で話される渡辺先生は子供時代に通ったお父様の仕事場である大学病理学教室の研究環境に触れながら、「なんと大学とは楽しいところなのだろうか!」と感じたそうだ。

研究は人を育てるところ

大学院時代は、生化学の分野で酵素の反応メカニズムの研究をしつつ、大学院修了時に取り組んだ新薬開発研究の中で自閉症の治療研究に携わり、脳神経系の研究に進む。人生の恩師、早石修先生(現大阪バイオサイエンス研究所理事長、当時京都大学医学部医化学教室教授)が京大を退官される頃、現科学技術振興機構の創造科学技術推進事業(ERATO)の早石生物情報伝達プロジェクトのグループリダーとなり、5年間で17億超という当時としては破格の予算のプロジェクトを推進するための研究所建設や、平行していた大阪バイオサイエンス研究所の創設・建設に関する様々な役割で、研究所・室の立ち上げのノウハウに関する希有の財産を得た。

「研究にはいつも岐路があり、後悔も多い」

大阪バイオサイエンス研究所ができた1987年、本当は何でも新しい研究を推進できる環境を所長である早石先生よりいただいた。当時は、現在につながる分子イメージング研究等に邁進していたが、オリジナルの研究テーマは人々には余り理解されず、若きフロンティアの先取りした研究は、5年後によく注目されるような、早すぎた研究に悔しい思いをしたことが幾度となくあったという。大阪バイオサイエンス研究所時代には、36歳という若さで研究部長としてチャンスが与えられたので、若者が研究室主宰者のテーマを鵜呑みに推進するだけでなく、自分の頭でテーマも考えて自主的に進める研究推進を図った。しかし、やはり集中し積み上げていく価値は大きく、人材育成と研究成果の狭間でリーダーの悩みは常に大きな課題であった。ただ、現在も「自分に与えられたものを次の世代に恩返す」ことを念頭において、現在、分子イメージング科学研究センターの構成員約260名と一緒にオリジナリティの高い研究を進めている。

生活習慣病や各種疾患をターゲットに、創薬開発はもとより、先制医療(早期診断、早期治療、介入による疾患発症予防)、創薬や医療技術の確立に寄与し、最近では(6月6日付ニュースリリース)体を傷つけない、PETで難治性乳がんを同一薬剤で診断できる手法を開発したことが大きな反響をよんでいる。

一方、分子イメージングも活用し、「疲れ」の研究もしている。さて疲れとはなんだろう。

発熱や痛みとは違いその正体はなかなか分かりにくい。脳と身体の疲労は密接につながり、疲れが蓄積すると生活習慣病などの病気になるやすい。ますますストレス社会に混迷を深める世界。疲労が引き金となって発症する心身の病はもはや日本だけではない。中国でも一時のバブルがはじけ、うつ病に悩む患者が3000万人を超えたという。疲れに年齢は関係なく、世界中、子供から大人までストレス社会のなかであえいでいる。渡辺チームでは、疲労のバイオマーカーをイメージングにより計測し、抗疲労に関する研究を国家プロジェクトとして産学官かつオールジャパン体制で進めている。

疲労からの脱出

特に子供たちの疲れは見逃せない。日本疲労学会で理事長を務める渡辺先生は「脳科学と教育」のコホート研究から、子供たちの学習意欲を高める多くの情報発信をし、毎日の食事から疲れに効く「抗疲労食」(丸善出版)を出版、日本食のレシピを提案している。海外で紹介したいという外国からの大きな反響がある。ライフ(医療)イノベーションを多数の企業と一緒に果たしていく神戸市医療産業都市構想の具現化の一つでもある。

長い間の経済状況の悪化が、日本に自信を失わせているかのように見えるが、自分の意見を自由に表現でき、世界の舞台上で堂々と戦っていける日本の若い世代の人材が今ほどそろってきている時はないという、世界の先端で活躍される渡辺先生からお聞きできたことはなんと心強いことだろう。

医療産業都市では、地域に根差した医療技術の開発だけでなく命の尊さと温もりのある暖かい医療に貢献する研究者を紹介し、研究とはなんと楽しいものか、大きくなったら病を治癒できる研究や医療に従事したいと思う子供たちを多く輩出できる環境や情報発信をしていきたい。

理化学研究所 分子イメージング科学研究センター センター長

渡辺 恭良 先生



株式会社オーセンアライアンス ヘルスケア事業部

<http://www.authen-alliance.co.jp/>

洗浄は感染防止の第一歩

株式会社オーセンアライアンスは長野県茅野市に本社を置き、各種水処理装置の開発製造および販売を手掛けております。ヘルスケア事業部は2011年秋に発足したばかりの新ユニットです。メンバーはいずれも医療機器の洗浄・再生処理の豊富な経験を有しており、医療機器洗浄用真空超音波洗浄装置の製造販売、医療機器用各種洗浄剤の輸入販売を初めとして医療機関様における洗浄に特化した事業を展開しております。

患者様に直接適応する手術機器や検査機器は固化した血液や体液などたんぱく質を初めとした有機物が混ざった複雑な汚れが付着しています。このような複雑な汚れを清潔に落とすことは医療機器の再生において感染を低減する第一歩と考えています。

我々は「専門的なアプローチで手術機器や検査機器の再生プロセスを最適化し患者様の安全を確保する」をモットーに医療機関様が安全かつ効果的に医療機器を清潔に洗浄・再生処理するためのお手伝いをしております。

早速ですが、我々の製品を一部ご紹介させていただきます。

真空超音波洗浄装置 USP シリーズ

超音波洗浄と聞くとまず思い浮かべるのは眼鏡屋さんの店頭にある眼鏡洗浄機だと思います。超音波洗浄機としての原理は全く同じものです。しかし、ただ超音波をかけても血液や体液の混ざった複雑な汚れを完全に落とすことはできません。USP シリーズには我々の経験をもとにした数多くのアイデアが詰まっています。球面波発信、真空洗浄システム、吸引洗浄システムなど様々な工夫を取り入れて設計した洗浄装置です。MEDDECに入居させて頂き、現在はマルチ周波数の装置を開発中です。



●真空超音波洗浄装置 USP シリーズ

ZIEG 洗浄剤シリーズ

洗浄において洗浄装置同様に重要なものが洗浄剤です。化学的な洗浄効果により複雑な汚れを洗浄します。優れた洗浄装置があっても洗浄効果の高い洗浄剤がなければ効果的な洗浄はできません。我々はヨーロッパでも、特に医療分野の先進国であるスイスの医療機器専門の洗浄剤メーカーに製造を依頼した洗浄剤を取り扱っております。アルカリ性洗浄剤、マルチ酵素洗浄剤、除菌アルカリ洗浄剤など各種洗浄剤をラインアップしており、洗浄物の材質や用途、洗浄方法によって最適な洗浄剤を選択することが可能です。



●Pre-Cleaning Station (超音波槽・すすぎ槽・スチーム洗浄装置等)

洗浄・再生処理の質にこだわる

ご紹介させて頂きました製品の詳細は限られた紙面では十分にご紹介できませんが、いずれの製品も我々の知識と経験を生かした自信作です。また、より優れた新製品の開発も急速に進めております。我々は限りなく清潔を目指し、質にこだわった洗浄・再生処理のプロフェッショナル集団であると自負しております。

もし、我々の製品にご興味があれば、お気軽にお問合せください。



株式会社オーセンアライアンス
ヘルスケア事業部
事業本部長 竹島 通晴
takeshima@authen-alliance.co.jp



●除菌洗浄剤
ディスイン・マテリアル



●アルカリ洗浄剤
アルカチャレンジ